

平成25年度 事務事業評価調書（平成24年度実績分）

事務事業名		里山保全啓発推進事業			
所管部局	環境部	部局長名	黒田 直稔	予算事業名	里山保全啓発推進事業費
所管部署	環境政策課	所属長名	氏原 和彦	予算事業科目(平成25年度)	010401030342

1 事業の位置付け

2011 高知市 総合計画・実施計画 施策体系での位置付け					
施策の大綱	01	共生の環	法定受託事務	施策取組方針	市民や市民団体、土地所有者等が積極的かつ主体的に活動し、維持・管理が継続される。環境の世紀にふさわしい人と里山の新たな関係を構築し、貴重な自然の一つである里山の保全を図ります。 また、竹林の利活用を進め、里山の再生と地域の活性化を図ります。
政策	02	自然豊かなまちづくり			
施策	04	里山の保全と再生			
2 事業の根拠・性格					
法律・政令・省令	なし				
県条例・規則・要綱等	なし				
市条例・規則・要綱等	高知市里山保全条例, 高知市里山保全条例施行規則				
その他(計画, 覚書等)					

3 事業の目的・内容等

対象	誰(何)を対象に	市民全般			
意図	どのような状態にしていくのか	里山保全事業及び里山の必要性や保全の意識をより多くの市民に認識してもらうため			
手段	事業実施体制等	事業運営業務を外部専門事業者に業務委託し、その他ポスターチラシ等募集広告媒体の印刷料の支出	事業開始年度	平成24年度	
			事業終了年度	-	
活動内容	どのような事業活動を行うのか	市民に里山が重要な環境財であることを認識してもらい、積極的に保全活動に参加する人材を育成する制度を構築するという目標に向けて、年間を通した四季を感じてもらい里山の保全やボランティア活動に関心のある大人を対象にした里山保全活動体験学習会を年間4回実施した。			
成果指標	事業目的の成果を測る指標		指標設定の考え方		
	A	参加者数	より多くの市民に参加し体験してもらうことが目標		
	B				
	C				

4 事業の実績等

			22年度	23年度	24年度	25年度(計画)	備考欄	
成果指標	A	参加者数			120	60		
					50			
	B	目標						
		実績						
	C	目標						
		実績						
投入コスト	① 事業費	決算額 (千円)			1,511	1,212	平成25年度は基金取り崩し	
		財源内訳	国費 (千円)					
			県費 (千円)					
			市債 (千円)					
			その他 (千円)			1,500		0
			一般財源 (千円)	0	0	11		1,212
	翌年度への繰越額 (千円)							
	② 概算人件費等	人件費等 (千円)	0	0	10,680	10,680		
		正規職員 (千円)	0	0	8,880	8,880		
		その他 (千円)			1,800	1,800		
		人役数 (人)			2.20	2.20		
		正規職員 (人)			1.20	1.20		
		その他 (人)			1.00	1.00		
総コスト= ① + ② (千円)		0	0	12,191	11,892			
市民1人当たりコスト (円)		0	0	36		総コスト/年度末人口		
年度末住民基本台帳人数 (人)		339,130	337,875	338,397				

5 成果指標で表せない事業成果・市民満足度・その他課題点等

・本事業により実施した自然環境調査により、植物約80種、陸上脊椎動物約30種、昆虫など、モデル地域の生物多様性の高さが確認されている。高知市内には、それぞれの地域特性に応じた里山の姿というものがあるため、これらの啓発活動を通じて得られたノウハウを活かしながら、関係諸機関が連携して進めていく必要がある。

6 所属長評価

評価項目		評価基準	1次	平均点数	評価内容の説明
事業実施の必要性	① [施策体系等での位置付け] 事業の実施が市の総合計画・実施計画・市長マニフェスト等の目標達成に結びつくか、又は、事業の根拠等に結びつくか	A (5) 結びつく B (3) 一部結びつく C (1) あまり結びつかない D (0) 結びつかない	A	4.0	・本事業は、「里山保全活動のすすめ」と題し、里山の現状を回復させ、その価値を知り、次世代に伝えるための第一歩として実施されたものである。対象者は、実施エリア周辺住民を中心に、高知市全域に呼びかけを行うとともに、森林ボランティア指導者養成講座受講者等にも呼びかけを行った。里山の現状を認識し、その活用や保全方法を検討するとともに、本事業の知見を活かして保全意識を高めていくための継続的活動が必要である。
	② [市民ニーズの傾向] 事業の実施に対する市民のニーズ（需要量）の傾向はどうか	A (5) 非常に多い、急増している B (3) 横ばいである C (1) 少ない、減少している D (0) ほとんどない	B		
事業内容の有効性	③ [成果の達成状況] 事業の成果指標の達成状況は順調か	A (5) 十分に達成している B (3) 概ね達成している C (1) あまり順調ではない D (0) 十分な成果を望めない	B	4.0	・本事業は、「市民に里山が重要な環境財であることを認識してもらい、積極的に保全活動に参加する地域リーダーを育成する制度を構築する」ことを目的とするものであり、参加者とNPO団体の交流を促すことで、継続的に里山保全活動に取り組む環境づくりに務めるとともに、人材育成につなげていくことが必要である。
	④ [事業の手法・活動内容] 事業成果の向上のための手法・活動内容の妥当性	A (5) 妥当である B (3) 概ね妥当である C (1) 検討の余地がある D (0) 見直しが必要である	A		
事業実施の効率性	⑤ [アウトソーシングの可能性] 事業の実施にかかる民間活力利用の可能性	A (5) 実施済・できない B (3) 行政主体が望ましい C (1) 検討の余地はある D (0) 十分可能である	A	4.0	・本事業は、自然環境に対する専門的知見を必要とするため、環境関連のNPO法人や民間企業等と連携し、そのノウハウを活用して実施する必要がある。しかし安全管理面や学習効果などを勘案すると、行政の一定の関与が必要な事業である。 なお、この事業は里山保全活動に参加する地域リーダーを育成する目的があるため、類似事業との統合は適当ではない。
	⑥ [事業統合・連携・コスト削減] 類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性	A (5) 現状が望ましい・できない B (3) 概ね効率的にできている C (1) 検討の余地がある D (0) 十分可能である	B		
事業実施の公平性	⑦ [受益者の偏り] 事業の受益者が特定の個人(団体)等に偏りがなく公平性が保たれているか	A (5) 極めて公平性が高い B (3) 概ね保たれている C (1) 偏っている D (0) 公平性を欠いている	B	3.0	・事業実施のフィールドとして選択したのは、春野町南ヶ丘北側の高知市所有の森林である。この場所は、土砂災害防止法による土砂災害警戒区域にあり、保安林指定も受けている区域であるが、生物多様性に富み、年齢層も若く地域コミュニティ活動も活発な地域であるため、里山保全活動のモデル地区として非常に適している。本事業では、植生調査、生き物調査、間伐、ネイチャーゲームなどさまざまな学習メニューを提供し、高知市全域に呼びかけを行っており、今後とも参加者を増やすためにも継続的な広報・啓発活動が必要な事業である。
	⑧ [受益者負担の適正化] 事業実施の財源として、受益者負担割合(一般財源負担割合)は妥当か。補助金等交付事業の場合、対象経費は妥当か。	A (5) 適正な負担割合である B (3) 概ね適正な負担割合である C (1) 検討の余地がある D (0) 検討すべきである	B		
総合点	15.0	総合評価	A 事業継続 (総合点が16点以上で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合) ○ B 経費削減に努め事業継続 (総合点が12点以上16点未満で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合) C 事業縮小・再構築の検討 (総合点が4点以上12点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで2点以下がある場合) D 事業廃止・凍結の検討 (総合点が4点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで1点以下がある場合)		

7 部局長評価

総合評価	評価理由・今後の方向性等
A 事業継続	所属長の評価と同じ。
○ B 経費削減に努め事業継続	
C 事業縮小・再構築の検討	
D 事業廃止・凍結の検討	

8 特記事項

--